

## 事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 邑南町教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 「知りたい やってみたい 伝えたい」を育てる学校づくり
4. 研究課題 :
- ①様々なことに興味を示し、「なぜ?」と問い、主体的に学び、表現する力を育てる。
  - ②大人数の中で自分の考えを堂々と表現したり、友達と一緒に活動したりする力を育てる。
  - ③地域の教育力の活用による探求型授業を充実し、地域の課題解決に参画しようとする力を育てる。

### 5. 事業の実績

#### (1) 調査研究のねらい

少子化・人口減少社会により小規模化する学校教育において、つながりの強い地域を積極的に学びのフィールドとするとともに、質の高い学びの力を身につけさせることが極めて重要である。子どもたちが本来持っている「知りたい欲求、学びたい欲求、誰かに伝えたい欲求」を満たし育てる。そのために、小規模校のメリットを最大限に生かし、小規模校だからこそできる多様な体験や徹底した個別指導を通して基礎学力の保障を図る。また、小規模校のデメリットを最小限に抑えるために、近隣の保・小・中学校の子どもたちや地域の多様な人たちとの意見交流の積極的な場づくりを行う。こうして、本校の教育活動を一層充実させ、魅力あふれるものとし、学校を存続させる方策について研究することを目的として調査研究を行う。本調査研究の取組と成果が、地理的条件等により存続を図ろうとしている他の小規模校のモデルとなるとともに、同様の課題を抱えている他の自治体のモデルになるとも考えている。

#### (2) 調査研究の実施状況（平成30年度）

##### 研究課題

- ①様々なことに興味を示し、「なぜ?」と問い、主体的に学び、表現する力を育てる。
- ②大人数の中で自分の考えを堂々と表現したり、友達と一緒に活動したりする力を育てる。
- ③地域の教育力の活用による探求型授業を充実し、地域の課題解決に参画しようとする力を育てる。

##### 研究課題に沿った実施状況

4月			
5月			
6月	③日本製紙江津工場見学(CNF製造工場)	日本製紙江津工場	4
	①宿泊研修	島根県立少年自然の家	4、5
	②矢上小との交流学習(1・2年)	矢上小学校	11
	②なくそういじめ子どもの集い	邑南町内小学6年生、中学5年合同	12
	①ロボット学習	てごねっと 坂根悦夫氏 来校(謝金支出)	14
	①川の学校	国土交通省	16
	①フィンランド文化に触れる会(ヴィオラ等演奏)	国際交流員アーロさん親子	18
	②Take off Hinui 日貫っ子ども議会	小林圭介氏、保護者、邑南町、地域、地元企業など	21
	③隅屋(さつまいも苗植え)	荒木春雄さん	22
	②3校合同外国語学習(6年)	矢上小学校、石見東小学校	26
	③隅屋茅葺屋根葺き体験学習	邑南町教育会、石見工業、日貫公民館	28
	③神楽笛練習会(クラブ:4~6年)	服部忠司さん	28
①川の生き物探検	ハンザケ自然館 伊藤さん	29	
先進地視察(NEW EDUCATION EXPO2018:大阪府):寺井(旅費支出)		15・16	
7月	①理科学習会	松本一郎氏 来校(謝金支出)	2
	①エリックさんありがとうの会(地域の方との外国語活動)	邑南町ALT、地域の方たち	3
	①ロボット学習	てごねっと 坂根悦夫氏 来校(謝金支出)	5
	①理科学習会(学校田の観察、顕微鏡の使い方)	内藤富夫氏 来校(謝金支出)	12
	③再生可能エネルギー講演会	シン・エナジー 来校	13
	①あゆをおいしくいただく会	八戸川漁協、日貫公民館、保護者、地域の方たち	18
①家庭学習の手引き作成、配布		18	
8月	②ロボット学習(公民館)	てごねっと 坂根悦夫氏 来校(謝金支出)	30
	①邑南町主催辞書引き学習授業研究会(1・2年)	深谷圭助氏 来校(バス運転手賃金)	31
	①全校辞書引き学習	深谷圭助氏 来校(謝金支出)	31

9月	②島根大学留学生交流会	島根大学留学生	3
	③神楽笛練習会(クラブ:4~6年)	瀧田均さん、徳田秀嗣さん	6
	第1回少子化・人口現象の対応し活力ある学校教育推進事業推進会議(謝金支出)		6
	①学び合い授業(3・4年 算数)	山下俊政氏(謝金支出)	7
	②保小合同運動会	保育園児、中学生ボランティア参加	15
	①地域医療学習(6年)	邑智病院	20
	①稲刈り	地域学校	21
	①ノルディックウォーキング事前学習	おおなんノルディックウォーキングクラブ	21
①再生可能エネルギー施設見学(6年)	島根県企業局(バス運転手賃金)	26	
②石見中学校見学(6年)	石見中学校	28	
10月	①中村ブレイス見学(6年)	中村ブレイス(バス運転手賃金)	2
	①東屋ごぼう収穫体験学習	東さん	5
	②3校合同理科学習(3・4年)	JAXA関係者	9
	①東屋ごぼうクッキー作り	地域の方たち	11
	②郡音楽祭(悠邑ふるさと会館)		18
	②ミニバス練習試合(3~6年)	邑南町立市木小	19
	①アーロさんのロシア語講座	国際交流員アーロ・ハーヴィストさん	19
	①えっさほいさひぬきっさ(日貫一周ノルディックウォーキング)	おおなんノルディックウォーキングクラブ、地域の方、日貫公民館	20
	②人権・同和教育講演会(ハーモニカ演奏会)	岩崎巖さん日貫公民館、PTA	20
	③Dr. フォレストからの手紙(木育、竹やぐら作り)	樹冠ネットワーク、小林圭介氏、保護者	20
	①プログラミング学習「ルビーの冒険」	鳥井雪氏(謝金支出)	24
	①ストーリーテリング	ちいさなろうそくの会	25
	②3校合同理科学習(6年)	矢上小学校、石見東小学校(謝金支出、バス運転手賃金)	26
③隅屋茅葺屋根完成見学	地域学校	30	
①しいたけ学習(3・4年)	邑南町農林振興課	30	
11月	③神楽笛練習会(クラブ:4~6年)	瀧田均さん、徳田秀嗣さん	1
	①学び合い授業(6年:道徳)	邑南町教育研究会、山下政俊氏(謝金支出)	2
	①ロボット学習(公民館)	てごねっと 坂根悦夫氏 来校(謝金支出)	4
	②郡ミニバス大会(改善センター:4~6年)	邑智郡小学校	8
	②食育学習(6年)	田中美羽栄養教諭	9
	②もちつき	地域学校	21
	③神楽笛練習会(クラブ:4~6年)	瀧田均さん、徳田秀嗣さん	22
	①学習発表会		23
	③神楽笛(学習発表会で発表)	瀧田均さん、徳田秀嗣さん	23
	①こんにやく座オペラ公演	こんにやく座、地域の方々	27
①図書委員会取り組み(ビブリオバトル)		28	
①語彙力検定		29	
12月	③Take off Hinui CNF学習会	岡久陽子氏、公民館、地域住民、行政、近隣企業(謝金支出)	5
	①ロボット学習	てごねっと 坂根悦夫氏 来校(謝金支出)	6
	①島根県学力調査		11
③隅屋囲炉裏体験	日貫公民館	19	
1月	①邑智クリーンセンター見学(4年)	邑智クリーンセンター	10
	③紙すき材料採取(5・6年)	寺脇さん、日貫公民館	11
	①地域の方との外国語活動(3・4年)	邑南町ALT	12
	③「えっさほいさひぬきっさ」東屋ごぼうクッキーごぼう収穫	東さん	15
	①みんなのまちづくりワークショップ、えっさほいさひぬきっさ	地域の方、保護者、邑南町、小林圭介氏	21
	②おおなんドリーム(6年)	邑南町小・中・高等学校・養護学校	27
	①学びあい研究授業(1年:学活)	田中美羽栄養教諭	28
①図書委員会取り組み		28	
2月	③紙すき(6年)	公民館合同、寺脇さん、地域の方	1
	③Take off Hinui CNF学習会	利昌工業 来校	4
	①地域の方との外国語活動(3・4年)	ALT、地域の方	5
	②交流学习(1・2年)	矢上小学校	8
	①ストーリーテリング	ちいさなろうそくの会	14
	①1・2年生活科「昔から伝わる遊びを楽しもう」けん玉教室	竹林友子さん	25
	①ありがとう!感謝の気持ちを伝える会	地域の方	28
	第2回少子化・人口現象の対応し活力ある学校教育推進事業推進会議(謝金支出)		28
	先進地視察(京都教育大学大学附属小学校:京都府)	漆谷、小松原	1・2
	先進地視察(東京学芸大学附属小金井小学校:東京都)	寺井(旅費支出)	2
先進地視察(大阪教育大学大学附属小学校:大阪府)	森脇	8・9	
先進地視察(福岡教育大学附属小学校:福岡県)	樋野(旅費支出)	8・9	
先進地視察(お茶の水女子大学附属小学校:東京都)	大屋(旅費支出)	22・23	
3月	①フィンランドの小学生と通信しよう	国際交流員アーロ・ハーヴィストさん	4
	①邑南町長さんとお話する会	石橋良治邑南町長	5
	①理科学習	松本一郎氏 来校(謝金支出)	12
	③公民館との年間計画作成		13

6.

## (1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

①様々なことに興味を示し、「なぜ？」と問い、主体的に学び、表現する力を育てる。

1、主体的な学びを身につけさせる。

→授業にガイド学習を取り入れた。

3～6年生の国語、算数、道徳の授業においては児童が児童による「ガイド学習」を取り入れた。本校でのガイド学習は教師が作成したガイドを元に児童が輪番で教師役となり進める授業をいう。アンケートによるとガイド役は好きだと答えて児童は3年生以上の児童の100%であり、ガイド役の児童はリーダーとして授業をつくっていくという意識が働き、その他の児童もガイドの立場を考えながら共に学び合った。

→辞書引き学習、調べ学習の時間を教育課程に位置づける。

毎週木曜日朝活動の時間20分間と給食前の約10分間を「辞書引き」学習の時間にあて継続。木曜日朝活動の時間20分間は図書館にて国語辞典を活用し「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」すべての要素を取り入れた学習の時間「辞書引きタイム」を設定した。「辞書引きタイム」は、進行やタイマーでの時間管理、出てきた言葉の板書など全て図書委員会が行った。

→地域をフィールドにした体験活動など5回以上

7月18日	あゆをおいしくいただく会
7/2、7/12、7/18、10/9	理科学習
10/5、1/15	農業の仕事日貫の野菜「東屋ごぼう」を通した学習（見学、収穫）
10/20	日貫一周ノルディックウォーキング
12/19	収穫祭（隅屋体験）
1/21	みんなのまちづくりワークショップ
1/21	えっさほいさひぬきさっさ「東屋ごぼうクッキー」で地域の方に喜んでいただく
2/1	紙すき体験
8/30、10/4	ロボット学習（公民館開催）

→児童の意識調査にて家庭学習時間がのびた児童の割合：80%以上

予習が好き77%復習が好き84%と与えられた学習はまあまあ好きも合わせると予習では80%、復習では100%に達する。しかし、自学やファミリー読書になると自学ではまあまあ好きも合わせて77%、ファミリー読書では69%と低くなる。家庭での自主的な学習の時間はまだ不十分である。

2、表現力を育てる。

→「辞書引き学習」の時間において、おもしろい言葉発見など発表の場の設定：80%以上

毎週木曜日朝活動の時間20分間実施。毎回発表の場を設定。

[手順]

- ①各自辞書を読み、知っている言葉を付箋に書き辞書に貼る。
- ②その中から今日最も紹介したい言葉など一つ選んで意味とともに付箋に書く。
- ③全員発表。
  - ・紹介した全員の言葉を品詞ごとに分けて板書。
- ④中から3つの言葉を選んで文章を作り発表。
  - ・教師は5W1Hをカードで意識させ、主語述語を確かめながら文章を作っていくよう促す。
  - ・教師は児童が発表した言葉について詳しい説明を加えたり、他の資料を示したりと児童の活動を補う。
- ⑤紹介した言葉と意味を書いた付箋を各自ファイルに整理。（数年間の蓄積＝私の言葉辞典の出来上がり）

20分という短い時間ではあるが3年間図書館にて継続したことで、辞書で引いた言葉について詳しく伝えたいとサブ資料を準備し説明する児童が増えた。今年度より毎週火曜日朝活動の時間20分間、図書館にて調べ学習の時間を設けた。児童自身が調べたいものを調べ情報カードに書きファイルに保存した。一人一人好きなことに没頭するこの時間を児童は楽しいと感じている。また、教師がテーマを設けポブラディアで調べる活動も取り入れた。図書館での調べ学習が好きな児童は100%、何か知りたいと思った時は辞書や図鑑で調べると答えた児童がまあまあと答えた児童も合わせて100%に達した。中でも、特に低学年児童において、字を書くことは面倒だと感じている児童でも、辞書引きタイムで発表することが「みんなに聞いてもらえるから」「自分の調べたことをみんなに教えてあげられるから」と発表することで学習意欲が高まっていることが伺えた。

→発信の時間と場を設定した授業の割合：80%以上

(抜粋)

1・2年	教科や活動を横断的に結び付けて、全校朝会などで発表
3・4年	国語、社会、理科、総合的な学習の時間などを横断的に結び付けて、学習発表会やリーフレットなどで発信
6年	国語、社会、理科、外国語、総合的な学習の時間などを横断的に結び付けて、学習発表会やおおなんドリーム等で発表
全学年	生き物調べの調査結果や竹林整備に係る学習、地域素材を活用しての学習をまとめて発表
全学年	教科や活動を横断的に結び付けて、日貫っ子ども議会で発表
全学年	保護者、地域の方、行政、一般企業とのワークショップ
全学年	ワークショップなどでの学びを教科や活動を横断的に結び付けて、ECO壁新聞を作成。応募
図書委員会	2学期：ビブリオバトル

→自校独自の語彙テストの作成と実施、分析 昨年度との比較：伸びた児童の割合80%

昨年に引き続き深谷圭介先生作成の語彙力測定問題を活用し語彙力を測定した。各自学年が上がっているため評価しづらく個人差はあるものの、現6年生3名を3年間を通して個人内比較すると内1名において語彙数が顕著に伸びている。漢字テストでも正答率が上がっていること、漢字と言葉の意味が結びついている（活用できる）ことから辞書引き学習など有効だったと考えられる。

→言語活動の工夫・改善に努めた研究授業：1人1回以上

本校の授業研究のテーマに掲げ取り入れた。

1・2年担任：特別活動：栄養教諭とのTTで食育の授業を行った。

3・4年担任：算数科：複式学級であるためガイド学習を取り入れたわたりの授業を行った。

6年担任：特別な教科道徳：ガイド学習を取り入れた。

◎NHK for schoolなどの情報番組を活用。

◎個別の指導にタブレットを活用。

◎ガイド学習や発表などで書画カメラや電子黒板、パワーポイントなど積極的に活用。

3、人間関係を向上させる。

→ロボット学習を通して他校児童や保護者等と交流した回数：2回以上

他校交流を1回行った。全5回の学習の内、2回は公民館で行い地域への発信を図った。

→異学年集団活動：10回以上

6/12 日貫っ子ども議会 10/20 日貫一周ノルディックウォーキング

6/18 川の生き物調査 10/20 親子活動(Dr. フォレストからの手紙、竹やぐら作り)

7/12 田んぼの生き物調査 12/ 5 Take off Hinui CNF学習会(岡久先生来校)

7/13 再生可能エネルギー講演会 12/19他 収穫祭(芋苗植え、芋ほり、隅屋体験)

7/18 あゆをおいしくいただく会 1 /21 えっさほいさひぬきっさ まちづくりワークショップ

9/15 保小合同運動会(中学生ボランティア) 2 / 4 Take off Hinui CNF学習会(利昌工業さん来校)

その他：ロボット学習、神楽笛、理科観察学習

→QUテスト満足群に属する児童の割合：80%

3～6年生について年2回のQUテストを実施した。いずれも満足群に属する児童の割合80%を越えた。満足群に入っていない児童が少数であっても全体の割合に影響を与える。結果をもとに支援したい。

→・地域の方に学習や活動を開放した取り組み：図書館活動 年2回、外国語活動 年3回以上

今年度は毎週金曜日の午前中を図書館開放デーとした。さらに、3・4年生の外国語活動(ALTが来校する日)を開放し、地域の方たちと共に学ぶ場とした。無線放送や学校だよりなどで呼び掛けたことによりいつもとは違う来校者も訪れるようになった。

②大人数の中で自分の考えを堂々と表現したり、友達と一緒に活動したりする力を育てる。

1、自己肯定感を高め、自信を持たせる。

→合同学習や交流活動の実施回数：7回以上

6/12 なくそういじめ子どもの集い(6年：元気館)

9/28 石見中学校見学(6年：石見中学校)

6/23 町めぐり合同学習会(3・4年：日貫小学校)

10/ 9 合同理科学習(6年：石見東小、矢上小)

6/28 合同外国語学習会(6年：石見東、矢上小学校)

10/17 郡音楽祭(全校：邑悠ふるさと会館)

8/31 辞書引き学習会(1・2年：元気館)

10/19 ミニバス練習会(3～6年：市木小)

9/ 3 島根大学留学生交流会(全校：日貫小学校)

11/ 5 郡ミニバス大会(3～6年：矢上交流センター)

9/15 保・小合同運動会(全校：保育所、中学校)

12/18 合同学習会(5・6年：矢上小)

→児童の意識調査(生活アンケート、交流活動後の感想等)

他校交流において一緒に学習したり、活動したりすることが楽しいと答えた児童：83%

対 近隣小学校：100%、中学校：88%、高等学校・養護学校：50%、保育所：92%

他校交流の感想

○年上の人と学習するとワクワクする。(中・高交流)

○いろんな考えが出るから、一緒に学べるから(中・高交流)

○仲よくなれるから、友達になれるから(小交流)

○日貫のことを知ってもらえるから(小交流)

○思いを伝えられるから(小交流)

○自分のことを知ってもらえるから(小交流)

○よく伝わるから(保交流)

○ワクワクする気持ちになるから(保交流)

○小さい子はかわいいから(保交流)

▼緊張するから。

▼恥ずかしいから。

▼あまり交流していないから。(高等学校・養護学校)

▼僕の発言は難しくてわからないと思うから。(保交流)

※他校交流においてともに学習したり、行動したりすることには概ねポジティブな結果を得た。

特に、同じ小学校の友だちに対し思いを伝えたい、自分を知ってほしい、自分の住んでいる日貫を知ってほしいという主体的な意見が多くあった。

交流回数が少ないことがネガティブな意見につながっている。

## →研修の実施 3 回以上

※ 最新ICT展示研修会、研究授業発表会などに教員が分担し出かけた。研修後、報告会の場を設け教職員研修を行った。新学習指導要領に則ってカリキュラムマネジメントを行い、研修で得た情報を参考にしながら本校の学習スタイルを構築した。さらに、各研修で学んできたことを授業に生かし授業改善を行ってきた。

- ・ NEW EDUCATION EXPO2018 : 大阪府 ・ 京都教育大学付属小学校 ・ 大阪教育大学付属小学校 ・ 東京学芸大学附属小金井小学校
- ・ 福岡教育大学付属小学校 ・ お茶の水大学付属小学校

## →ルーブリックによる評価項目を配した年間活動計画の作成

年間活動計画を作成し、項目ごとに教職員で仕事を分担し取り組んだ。さらにルーブリックを作成し、日々の学習はもちろん様々な行事や活動などに示し、学び方を意識した取り組みが児童に浸透してきた。

## →他校間交流の計画的な実践

近隣小学校とは様々な活動が年間計画で決まっており取り組みやすかった。高等学校・養護学校との交流は、目的の共有が十分に測れず計画的な実践に結びつけることができなかった。中学校、保育所とももう少し密な計画が必要だった。とはいえ学校間で互いに相談し合える関係であることで9月という早い段階から中学校見学が可能になるなど必要に応じて交流を図ることができた。ただ、児童対象アンケートの結果から交流の回数は低いことが児童の意識の高まりが今一つ上がらない原因になっていることから、今年度中に活動計画を見直し多様な交流を図っていきようにしたい。

## ③地域の教育力の活用による探求型授業を充実し、地域の課題解決に参画しようとする力を育てる。

## 1、探求型授業を充実させる。

## →地域の教育力を活用した授業実施：10回以上

- 6/21 : Take off Hinui 日貫っ子ども議会(小林コーディネーター、鹿野公民館長、香川PTA会長、邑南町湯浅さん、トリコン(株)上田社長、その他)
- 7/18 : あゆをおいしくいただく会(八戸川漁協、鹿野公民館長、橋本公民館主事、その他地域の方多数)
- 9/20 : 地域医療学習(邑智病院：総合)
- 9/21 : 日貫一周ノルディックウォーキング事前学習(おおなんノルディックウォーキングクラブ：生活・総合)
- 10/20 : 日貫一周ノルディックウォーキング(おおなんノルディックウォーキングクラブ：生活・総合)
- 10/9 : 3校合同理科学習(出羽公民館長)
- 10/5, 1/15 : 東さんのごぼう畑見学、収穫(東さん：社会・総合)
- 10/11 : 東屋ごぼうを使ったクッキー作り(地域の方：総合)
- 10/19 : アーロさんのロシア語講座(国際交流員アーロハーヴィストさん：生活・外国語活動・総合)
- 12/5 : Take off HinuiCNF学習会(生活科・総合的な学習の時間：鹿野公民館長、橋本公民館主事、地域の方たち多数)
- 1/16, 2/1 : 紙すき材料採取、紙すき(寺脇さん、鹿野公民館長、橋本公民館主事：総合的な学習の時間)
- 2/25 : 1・2年生活科「昔から伝わる遊びを楽しもう」けん玉教室(竹林友子さん、鹿野公民館長：生活科)
- 3/4 : フィンランドの小学生と通信しよう(国際交流員アーロハーヴィストさん：生活・外国語活動・外国語・総合)
- 3/5 : 邑南町長さんとお話する会(石橋良治邑南町長：特別活動)

## →公民館との年間活動計画作成

学校での活動は公民館と協力しながら計画を立てた。

## 2、地域の課題解決に参画

## →地域の活動に参加：7回以上

蕎麦に関する活動：種まき、収穫、そば打ち 米作りに関する活動：草取り、稲刈り、餅つき

神楽に関する活動：日貫大元神楽フェスティバル、各神楽団にて夜神楽に参加

その他：季節の祭り、月一回の放課後公民館活動

## →考えをまとめ、新聞等で発信：10回以上

Take off Hinui日貫っ子ども議会(模造紙にまとめ、アンケート集計などまとめたものを書画カメラを活用し発表)

あゆをおいしくいただく会(案内状) 日貫一周ノルディックウォーキング参加呼びかけ(ポスター、ケーブルTVでのCM)

This is my town. (模造紙にまとめ、英語で発表) 「日貫のまちづくり」に関するアンケート

東屋ごぼうのひみつ(パンフレット) CNFに関するお願いやお礼(手紙)

「日貫のまちづくり」に関するアンケート ECO壁新聞

まちづくりワークショップ(模造紙にまとめ、アンケート集計などまとめたものを書画カメラを活用し発表)

おおなんドリームでの発表

## →公民館との年間活動計画作成

それぞれの年間計画を照らし合わせながら担当者同士が密に相談しながら活動を進めた。

## →地域関係者の意識調査

地域関係者への意識調査を行った。探求型授業を通して地域への発信については地域関係者では90%以上が掲示物などを見て周知していた。地域の課題解決に児童が参画する件については、児童は地域の活動に90%以上が積極的に参加していると感じていた。さらに、児童が地域の課題解決に向け考え、行動していると感じている方は74%であった。毎月学校便りを、さらに行事や活動などのご案内など児童の手書き部分を設けるなどしながら全校配布しているが、分からないという回答が残りを占めていたため地域の方たちとの意思相通の方法や活動の伝え方など今後も検討を重ねたい。

(2) 成果物等

- ・ H30年度「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育の推進事業」年間活動計画
- ・ 【資料】「知りたいやりたい伝えたい」を育てる学校づくり
- ・ リーフレット
- ・ ブログ まめわざ HiNui 内 日貫小学校ブログ  
(<https://hinuisennryaku.webu.jp/17420/>)

(3) 今後の取組予定

- ・ 3年間の取り組みをもとに、小規模校を存続させる場合の教育活動をさらに高度化させる。
- ・ 保小、小小、小中のみならず、町内にある養護学校、高等学校、さらには町、県、全国、世界へもネットワークを構築し、より幅広い仲間とのコミュニケーション能力を育成する。
- ・ ループリックをもとに各自評価できるシステムを構築して身につけさせていくとともに、考えたことを行動へと結びつけていけるよう手立てを探り、実行へと結びつける。
- ・ 年間計画を作成し、[ふるさと]との連携をより深め、探求型授業を充実させ、地域の課題解決に参画しようとする力を育てるとともに、持続可能なまちづくりを目指すべく取り組みを重ねる。